施設ルポ Home Lupo
―第38回―

# 入居者の「自主運営」をサポート

## 日本老人福祉財団 介護付有料老人ホーム佐倉〈ゆうゆうの里〉

平成30年度の介護報酬改定では「自立支援」が大きなテーマの一つだった。結果的には、特定施設は様々な手法でリハ等に取り組むことで加算が取得できるようになった。ここに至る議論の過程では、有識者の間でも「自立支援とはどうあるべきか」との問いが何度も投げかけられた。

一般財団法人日本老人福祉財団が設置運営する、介護付有料老人ホーム佐倉〈ゆうゆうの里〉（千葉県佐倉市、大野茂弘施設長）では、約3年前に大野施設長が赴任した時から「自立支援」への取り組み方で新たな手法を試みた。

それは「入居者が『自ら自立する』ことをサポートする」。この結果、施設内の要支援・要介護者は大幅に減少した。

どのように取り組んだのか、大野施設長に聞いた。

**――施設運営の考え方は？**

まず、医療面・介護面のサポートが完備していることが大前提だ。これにより「元気なうちに入居して、人生を楽しみながら介護になっても安心して暮らせる」ことが実現できる。

これをベースに、「入居者の皆さんがどうすれば自立して頑張って暮らせるか」を考えている。

言い換えれば「自分自身で、どれだけ人の役に立つか、どうやったら自分たちが生きがいを持って生きていくことができるか」だ。これを私たち介護スタッフが「ご本人たちがわからない間に支援する」ことに、この3年間取り組んできた。

**――具体的には？**

「人材バンク」という名称で、入居者の皆さんにボランティア活動を呼び掛けた。

例えば、当施設は今年開設30周年を迎えた。これを機に、何かイベント的な行事を執り行おうと、入居者の皆さんの代表者が「入居者委員会」で話し合った。すると「30年前の、初代の入居者の方々を自分たちで表彰したい。ぜひ、施設で手伝ってくれないか」とのご意見があった。

現在は入居者数440名のうち、「初代」の方が39名おられる。そこで私は「それなら、当時の施設長に来て頂いて、彼に表彰状を『初代』の方々に直接プレゼントしてもらいましょう」とご提案した。

「『ゆうゆう』が介護業界の先陣を切っていけるよう努力していきたい」と語る大野施設長

歴史文化の街・佐倉にふさわしいレンガ造りの施設

すると、その表彰状のあて名書きを「人材バンク」に登録して下さっている達筆な方が書いて下さり、私たちが記念品をつくって、それで初代の施設長から手渡してもらった。

これ以外にも、入居者の皆さんが自主的に地域の清掃活動を実施したり、入居者の着衣のリフォームを縫製の得意な方が無償で引き受けて下さったり、近隣の幼稚園に英語を教えに行ったりしている。

**――この取組みでどのような成果があったか？**

結果的に「自分たちでできることは、自分たちでやる」という意識が高まった。これは非常に重要で、認知症の予防に効果があり、介護予防にもつながっていると思う。私たちは、その自主的な活動を支援している。

**――成果の要因は？**

私は「精神面」だと確信している。気持ちが落ち込んでいる状態では、どのようなリハや訓練に取り組んで頂いても効果は得られない。

どのようなお手伝いをすれば、皆さんに元気になって頂けるのか、そこに私たちが少しだけ「仕掛け」を施している。まだ試行錯誤の繰り返しだが、現在はこれに重点的に取り組んでいる。

**――今後、取り組んでみたいことは？**

実は「入居者委員会」は一時期中断していた。私はこれに違和感があったので、入居者の皆さんと話し合いを重ね2年前に8年ぶりに復活した。

現在は「入居者委員会」が入居者自治のベースにあって、われわれが窓口になっている「運営連絡会」を開催し、その翌月には「入居者懇談会」を実施して、議論する場を設けている。

今後は施設の「自立運営」を充実させ、さらに「生きがい」の部分を広げれば、もっと面白い施設になるのでは、と思っている。

**【施設概要】** 開設＝昭和63年5月▽定員＝485名▽所在地＝千葉県佐倉市鏑木町270・1／☎043・486・5577